

令和5年6月26日

南の風 481

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

間が空きましたが、480号の続きです。

例えばミニバスの場合、1試合に40得点するオフェンスを目指しているとして、先週おこなった試合では25点しか取れなかったとします。分析の結果、シュートまでは行けているがそのシュートを決め切れていないことが原因だと分かりました。ならば、練習の時間配分と中身を管理し、今週の練習では実戦的な『フィニッシュのドリル』の時間を多めに設定するのです。これが、成果の定義からプロセスを分析し、管理するという行程の一例です。「生産性のコンセプト」で練習というプロセスを分析、管理し、より良い練習を考え続けることが指導力の向上につながるのです。

ここでゲーム分析をすることで成果を分析できることに触れます。

選手の育成を重視して考えれば、指導者が組み立てる練習の質の向上が重要であり、そのために練習分析が必要です。そして、この練習分析の精度を高めるために、ゲーム分析が必要不可欠なのです。

プロやカテゴリーがトップレベルであれば、分析のブロックの中では、このゲーム分析の要素の重要度が増します。分析によって相手の特徴をつかみ、強みと弱みを把握して戦術、戦略を練ることは勝敗に直結します。

この側面だけで考えると、勝敗だけに拘らない育成年代のコーチングをしている我々にとっては、ゲーム分析はそれほど重要ではないと思われるかもしれませんが、しかしながら、ゲーム分析なくして練習の分析は不可能です。**練習というプロセスの成果は試合の中で表現される以上、試合の分析なくして練習というプロセスの質の向上はないのです。**

ゲーム分析は、戦術・戦略の意思決定材料になるだけでなく、練習分析のための資料にもなるのです。

また、それ以外にも「意欲」のブロックにも影響を与えることができます。選手の評価や成長に、ゲーム分析の内容を活用することが可能です。**育成年代の指導者だからといって、ゲーム分析を無視することはできないのです。**

次に最低限押さえておかなければならないスタッツについてです。

バスケットボールの勝敗はシュートの本数と確率で決まります。

◇シュートの本数に関わる要素としては、

①リバウンド、②ターンオーバーがあります

◇シュートの確率に関わるものとしては

③試投数（Attempt→アテンプトなのでAと表記されることが多い）・成功数（Made→メイドなのでMと表記されることが多い）があります

最低限としては、この3つを押さえておくことで戦略と戦術の概要は把握できますし、練習分析の材料としても重要度が高い部分を押さえることができます。

もちろん、さらに精度の高い分析をしたいとなれば、確率の高いシュートにつながるアシスト、ターンオーバーにつながるスティール、ディフレクション、ブロックショットなどを見る必要があります。